

0922

軍  
鳩  
研  
究  
報  
告

軍鳩研究報告

目次

第一、軍鳩研究經過概要  
第二、所見

一、海軍ニ於ケル軍鳩ノ價值

附、軍鳩實用摘録

二、海軍ニ於ケル軍鳩ノ用途

三、海軍用各種鳩舎ノ配備並趨勢力

四、各種鳩舎ニ要スル人員並經費

五、教育、統一及ヒ補充機関設立ノ必要

附録（各編別冊トス）

第一編 軍鳩能力

第二編 艦上鳩舎

第三編 夜間鳩

第四編 熱帯寒帯地方ニ於ケル軍鳩通信

第五編 諸航空機ヨリノ軍鳩使用法

横須賀海軍航空隊符箋用紙

大正 年

附録  
各編

紙用箋符隊空航軍海賀須横

大正

年

月

日

横須賀海軍航空隊

附録

名編

別冊

後送ス

0924

第六編  
第七編  
第八編

海軍用圖生國定艦  
艦機源理編匯可茲  
經費  
内外國使鳩ノ状況  
海軍使鳩用語

(終)

第一、軍鳩研究經過概要

期		第一	第二
自	至	自	至
一九三三年	三月	九月	十一月
橫須賀航空隊陸上固定鳩舎	軍船若宮船上鳩舎	橫須賀航空隊陸上固定鳩舎	南洋防備隊陸上固定鳩舎
研究シ得ル事項	軍鳩ノ飼育繁殖訓練並洩法 軍鳩飼料ノ所屬器材ノ制定 海軍用陸上鳩舎型式ノ制定 軍鳩兵ノ養成教育 色音響形態ニ對スル鳩ノ識別並記憶力 空射ノ位置ニ對スル鳩ノ記憶力 熱帶地方ニ於テ飼育訓練並洩法 航空機ニ於テ船上鳩飼育訓練洩法 飛行機ヨリ母船ニ對スル軍鳩使用法 海軍用船上鳩舎ノ型式 放鳩距離延伸 軍鳩實用通信ノ距離標準 風雨雪霧中ノ放鳩 小船艇鳩舎ニ於テ飼育訓練法 船中鳩舎ニ於テ飼育訓練法	軍鳩ノ飼育繁殖訓練並洩法 軍鳩飼料ノ所屬器材ノ制定 海軍用陸上鳩舎型式ノ制定 軍鳩兵ノ養成教育 色音響形態ニ對スル鳩ノ識別並記憶力 空射ノ位置ニ對スル鳩ノ記憶力 熱帶地方ニ於テ飼育訓練並洩法 航空機ニ於テ船上鳩飼育訓練洩法 飛行機ヨリ母船ニ對スル軍鳩使用法 海軍用船上鳩舎ノ型式 放鳩距離延伸 軍鳩實用通信ノ距離標準 風雨雪霧中ノ放鳩 小船艇鳩舎ニ於テ飼育訓練法 船中鳩舎ニ於テ飼育訓練法	軍鳩ノ飼育繁殖訓練並洩法 軍鳩飼料ノ所屬器材ノ制定 海軍用陸上鳩舎型式ノ制定 軍鳩兵ノ養成教育 色音響形態ニ對スル鳩ノ識別並記憶力 空射ノ位置ニ對スル鳩ノ記憶力 熱帶地方ニ於テ飼育訓練並洩法 航空機ニ於テ船上鳩飼育訓練洩法 飛行機ヨリ母船ニ對スル軍鳩使用法 海軍用船上鳩舎ノ型式 放鳩距離延伸 軍鳩實用通信ノ距離標準 風雨雪霧中ノ放鳩 小船艇鳩舎ニ於テ飼育訓練法 船中鳩舎ニ於テ飼育訓練法

期		三 第						期	
月	四	年	三	十	正	大	自	月	四
月	七	年	四	十	正	大	至	月	三
軍艦令副艦上鳩舎		軍艦若官艦上鳩舎		機須賀防備隊陸上固定鳩舎		小笠原特設鳩舎		機須賀航空隊陸上固定鳩舎	
飼育、淘汰品種改善		救鳩距離延伸		飛行機、航空船、氣球、哨船艇等ヨリ陸上鳩舎へ通信法並陸上鳩舎ニ依ル一般實用通信		夜間鳩ノ養成及夜間訓練		陸上小型移動鳩車	
急設陸上鳩舎、馴致訓練法		亞熱帯ニ於テ飼育管理法		艦上鳩ノ艦上孵化、飼育、訓練法		海上陸上又ハ空中ヨリ破泊中ノ船舶ノ通信法		破泊中ノ同型船舶中ノ船舶ノ通信法	
同一地区ニ於テ銘地変更セシ船舶ノ通信法									
								歐米各國軍鳩ノ状況	
								注寒地方ニ於テ飼育、訓練並使用法	
								軍鳩養成ニ関スル標準期間	
								船上鳩ノ特養養成並移動訓練法	

軍艦運鯨船上鳩舎

海上陸上又ハ空中ヨリ航行中ノ艦船ノ通信法  
 同型艦編隊航行中ノ一艦ノ通信法  
 船上鳩舎ノ他艦船多轉及新艦ニ対スル別致  
 状態別致日数  
 艦隊抜船ニ於テ軍鳩使用法  
 潜水艦隊抜船(舟艦)ニ於テ軍鳩使用法  
 (日下研究繼續中)  
 軍鳩ノ海軍ニ於テ用途  
 軍鳩ノ利用範圍ニ基キ常備スルキ最小限度  
 ノ飼鳩数  
 使鳩隊ニ居テスル經費其ノ他

〔附〕海軍軍鳩研究經過一覽表

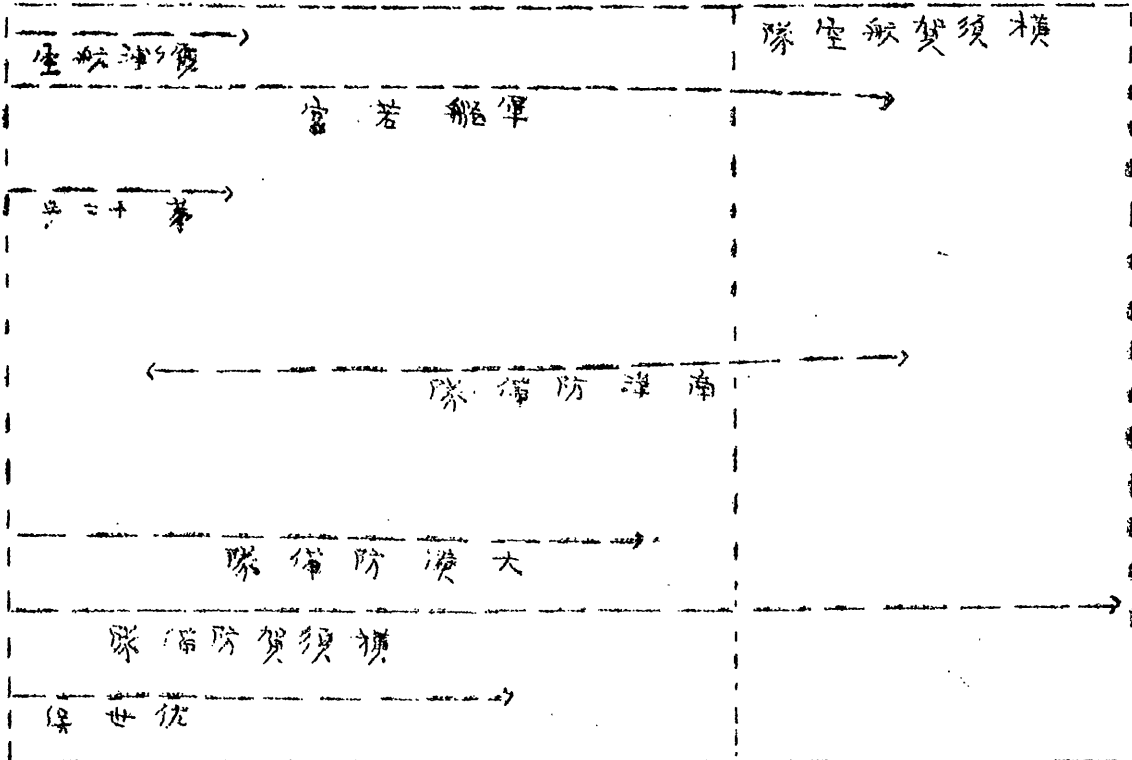
期間 研究經過 經過線圖

明治三十七年二月横須賀鎮守府  
 艦内ニ鳩舎ヲ設ケテ爾後鳩研究  
 次第ニ旺トシテ佐世隊鎮守府舞鶴

大 正 八 年	大 正 八 年 以 前
<p>三月下旬陸上固定鳩舎ノ研究開始(主任武知大尉)</p> <p>三月下旬陸上固定鳩舎ノ研究ヲ編入ス</p> <p>ヨリ保管轉換シテテシ一ツヲ初</p> <p>鳩舎竣工、中野陸軍鳩舎</p> <p>大月ノ訓令ヲ受ク</p> <p>三月上旬軍鳩研究ニ閉スル</p>	<p>望郷ニ鳩舎設備明治三十八年</p> <p>研究停止、大正七年横須賀航空</p> <p>隊ニ鳩舎ヲ設備、八羽ヲ以テ研究冊</p> <p>始(主任矢島大尉) 大正八年六</p> <p>月武知大尉外下士官共五名命ニ</p> <p>依リ中野ニ於テ軍用鳩研究ニ</p> <p>参加シ個人教師ノ講習ヲ受ク</p> <p>十二月横須賀航空隊ニ歸隊鳩</p> <p>舎建築ニ着手</p>



大正十一年	大正十年
<p>八月、横空隊第12號機銃ニ機上鳩舎ヲ設備ス</p> <p>全鳩舎、鳩ハ翌年十一月若宮ニ移轉ス</p> <p>八月、霞浦航空隊ニ鳩舎設備、翌年三月撤退歸隊セシム</p> <p>十一月、喜多山大尉利根川大尉ニ代リ研究主任トナル</p>	<p>七月、迄ニ北ノ金華山、西ノ潮岬、南ノ八丈島迄放鳩訓練ヲナス</p> <p>四月、南洋防備隊ニ鳩舎設置、翌年九月島嶼ニ引渡ス</p> <p>五月、飛行機母艦若宮ニ船上鳩舎ヲ設備ス</p> <p>四月、第ニ期研究ニ入ル</p> <p>五月、利根川大尉、武知大尉ニ代リ研究主任トナル</p>



大正十四年	大正十三年	大正十二年
<p>四月、以降實験研究續行中 手不</p> <p>四月、軍艦研究報告調製ニ着手ス</p> <p>一月、軍艦全別ノ鳩舎ヲ軍艦運送ニ移轉ス</p>	<p>九月、併願ヨリ種鳩三十五羽到着 退)</p> <p>爲特設鳩舎ヲ設備ス(大敵)</p> <p>八月、小笠原ニ大演習中便用ノ</p> <p>五月、夜間鳩ノ研究ヲ開始ス</p> <p>四月、第三期研究ニ入ル</p> <p>一月、特務船高崎ノ鳩舎ヲ軍艦 倉別ニ移轉ス</p>	<p>四月、軍艦春田ニ鳩舎設備、翌 年五月、塚退歸隊セシム</p> <p>七月、特務船高崎ニ鳩舎ヲ 設備ス</p>
← 隊		
<p>← 軍艦運送 × 全別 × 高崎 特務船</p> <p>← 汽船</p> <p>← 隊備防 鶴 舞</p> <p>← 志大 海防 世仗</p> <p>← 校學術砲軍海</p> <p>← 校學兵軍海</p> <p>← 校學水陸軍海</p>		
← 隊備防		

第三所見

一、海軍ニ於テ軍鳩ノ價值

(一) 軍鳩通信法ノ長所

(イ) 科學的通信法ノ杜絶スル場合最後ノ豫備通信機關トシテ唯一無ニノモノナリ

又科學的通信機關ノ副装置トシテ輕便ナリ

(ロ) 精細ナル數字表、略圖、寫真、フィルム、長文ノ信書等ヲ輸送スル能力アリ(鳩數ヲ多クスルコトニヨリ)並ニ軍鳩通信用顯微鏡

寫真ノ利用ニヨリ此ノ能力一層增加ス

右ニ項目ト軍鳩通信法獨得ノ長所ニシテ他ノ現有科學的通信機關ノ得テ追從スル能ハ其所ナク尚他ノ利點ヲ列挙スルハ左ノ如シ

(イ) 隱密ニ發信スルコトヲ得

(ロ) 盜信マラス、機密少シ

(ハ) 無電ヲ有セテ哨船艇等ニテ其ノ代用シテ得ヘシ

(ニ) 混信妨信ノ憂ナシ

(ホ) 通信時刻ノ制限ヲ受スルコトナシ(夜間ハ夜間鳩ヲ使役ス)

(4) 送信者ニハ何等専門的技術ヲ要セス

(5) 送信設備ヲ要セス

(6) 送信者通信ニテ以テ送信中錯誤ヲ惹起スルコトナレ

(7) 陸、空如何大場所ニテモ通信スルコトヲ得

(二) 軍鳩通信ノ範圍、力量、精変

(1) 時間 晝夜共二十四時間ヲ使用シ得一夜ハ夜間鳩ヲ使役ス

(2) 空間 海上ヨリ陸上へ、陸上ヨリ海上へ、陸上ヨリ海上、陸上へ使用シ得

(3) 地域 酷熱ノ南洋ニ於テモ極寒ノ樺太、シベリヤニ於テモ使用シ得

(4) 通信速度、過去数年ニ於テ陸上及ヒ海上ノ成績ヲ綜合スル

時ハ其ノ水平速度ハ平均一分一ヨリ米(三十七節)ナリ

(3) 通信分量

一 鳩ノ通信量

信書種、行法種別	收容シ得ル通信量(回数)	字數	記 事
信 書 卷	二	三三〇	複雑な航空隊和定通信用紙
信 書 巻	一〇	一六五〇	二字、大サ一センチ平方ナリ
鳩通信用寫真(フィルム)		四萬字	顕微鏡寫真

一 初ノ鳩ノ通信量右ノ如クスル以テ鳩數ヲ多クスルコトニ依リ如何ナル長文ノ信書及ヒ多數ノ写真、縮図ヲ輸送シ得

通信距離

日本に於ける最大通信距離

海軍	陸軍	民間	鳩ノ所屬別
沿岸 海上	野邊地	密岡	放鳩地
青ヶ島	中野	大坂	到着地
追濱	追濱	一〇〇〇	距離(里)
三〇〇	三五八	六〇〇	

通信精度

唯一羽ノ鳩ヲ使用スル場合ノ通信精度ハ百乃至七〇「パーセント」  
 ナルヲ鳩數ヲ多クスルコトニ依リ常ニ百「パーセント」トスルコトヲ得

軍鳩通信法ノ價值批判

軍鳩ハ其ノ性能上分秒ヲ争フ洋上ノ戰略戰術的通信トシテ  
 有利ナルモノアラザルヤ勿論ナリ。雖軍鳩通信法ノ特長ハ他ノ  
 通信法ノ企及スル能ハズ點アリテ亦通信ノ採用ハ從來ノ通  
 信法ノ一缺點ヲ充足スル次第ナリ之レヲ過去數年間ニ亘リ  
 横須賀航空隊、航空母艦若宮、特務艦高崎、軍艦春日、  
 第一艦隊獲船令副、横須賀貯備隊、砲術學校、潜水隊等

技、潜水戦隊、預備隊、兵學校、佐世保海兵團、佐世保防  
 備隊、舞鶴防備隊、大湊防備隊、十四所轄ニ於テ充實用本項  
 未添所、軍艦充實用、摘録参照ノ、成績ニ徴スル、明瞭ニシテ  
 就中彼ノ大正十一年五月三日若宮ノ一機不幸ニシテ野島沖  
 大湊中ニ不時着水セシトキ、忽チ一機ニ飛來シテ急ラ、母艦ニ告ケ  
 以テ操縦將校、荒木中尉ヲ安全ニ救助スルコトヲ得セシメタルカ  
 如キ、其ノ功績何ニガ、警シ、近クハ大正十二年九月関東大震災  
 ニ際シ、陸軍力平素ヨリ實施セラル中野陸軍省間ノ軍艦往復  
 通信並ニ固定鳩舎、移動鳩車、夜間鳩車ヲ利用シ以テ科學  
 的通信機關全部杜絶シタル震災、真景中ニモ帝都警備  
 ノ中心タル陸軍省ト東京近傍各地警備部隊ト通信連  
 絡ニハ何等ノ支障シ來ワリシカ、如キ又、横須賀航空隊ノ軍  
 艦カ東京方面其ノ代案失地ト通信連絡ニ極メラ有効ナラ  
 コト、又當時、横須賀警備ノ任ニアリシ軍艦、春月ノ艦ト鳩カ陸  
 海ノ通信連絡ニ從事シヨク其ノ使命ヲ全クシ、如キ其ノ顯著  
 ナル數例ニ過キスト、雖、軍艦カ変ニ知シ、最後ノ最良通信手段  
 タルコトヲ、實際ニ教スルナリ、今ニシテ思フ、彼ノ震災當時海軍

省ト船橋電信所ト通信杜絶シタルトキ若シ平素ヨリ兩地  
 間ニ軍鳩往復通信ノ實施アリタリトシテ如何ニ有効ナリシナラ  
 ント平戰時直捷地點トシテ通信線ノ確保ヲ要スル所コソ有線  
 無線ノ通信装置ト共ニ軍鳩ヲ常備スルノ要アリトシテ  
 要スルニ軍鳩通信法ハ、通信能力ノ特種分擔及通信操縦ノ  
 増大ナリ而已ナラス之レヲ實施スルニ見ル時ハ平戰時ヲ通シ船  
 團部隊ニ於テ先戰務、雜務、諸作業等ニ際スル通信力ノ向上  
 ニシテ軍船春日及金剛ニ於テ先船上鳩力極メテ輕便有効ニ使  
 用セラレ又防備隊ニ於テ先沿岸防禦哨戒船艇及ヒ方面ニ於  
 テ視界ヲ超越シ通信妨信ノ憂ナク有効ニ使用スルカ如キ  
 一軍軍鳩通信ヲ實用スルモノ其ノ有益ナルヲ先ハ能ハサトコロ  
 ニシテ軍鳩試育各部ニ於テ鳩數ノ増加ヲ切望シテ止マセ見ル  
 所所説ノ價値ヲ確辯ニ求書スルモノニ外ナラス今ヤ我海軍ニ於  
 テ正式ニコレヲ採用スルニ躊躇スヘキニアラセテ確信スル次第ナリ  
 論者或ハ言ハン科學ノ進歩曰ニ新ニシテ電信電話ノ進歩  
 普及盛衰今日何ソ原始的ニ軍鳩ノ要アラザト一理アルカ  
 如シト雖モ巧妙精緻ニ科學的設備ヲ常ニ完全無缺ノ狀  
 態ニアルモノニアラセコトヲ思ハセヘカラス

彼ノ歐洲大戦ニ於テ巧妙複雑ナル電氣的通信機關ハ彈幕ヲ彈  
 幕ノ實戰場裡ニ於テ其効力ヲ發揮スルコト能ハスシテ獨リ軍  
 鳩ノ超然トシテ硝煙裏ニ其ノ用ヲ在ルカ如キ以テ鑑ムヘキナリ  
 此ノ如キハ無線電信勃興當時歐洲各國並我海陸軍ニ  
 於テ軍鳩研究廢止ノ早計ナリシ失敗ノ轍ヲ踏マントスル  
 ニシテ一顧ノ價ナキモノナトス  
 實ニ過去五年間ノ研究實験ハ明ラカニ我海軍ニ軍鳩採  
 用スヘキコトヲ教スル次第ニシテ之レカ實施ノ方策ハ以下各項  
 ニ述スル所ノ如シ  
 一 我海軍現有ノ軍鳩ハサシテ優種ニカラス從テ其ノ能力モ  
 十分トハズ難ク本通信法ハ尙尙ト發達ノ餘地多ク  
 又之レカ遂行ニ對シ之レ分ナル成算ヲ有スルモノナリ



附、軍鳩實用摘録

常時 實用	横須賀 事項
<p>(1) 飛行機場外飛行中ノ諸報告或時着水陸應急用</p> <p>(2) 航空船飛行中ノ諸報告或時着陸應急用</p> <p>(3) 自由気球行動中ノ諸報告或時着陸報告</p> <p>(4) 中央氣象台ヨリノ氣象通報或氣象回輸送</p> <p>(5) 所屬兵艦派遣先ヨリノ諸通信</p> <p>(6) 派遣自動車ヨリノ諸通信</p> <p>(7) 出張者出張先ヨリノ諸通信</p> <p>(8) 出動艦船洋上ヨリ本隊並横須賀鎮守府東京方面等ノ諸通信</p> <p>(9) 自大正十三年十月上旬海軍省横須賀定期通信<small>(一週一回使用鳩共線鳩)</small></p> <p>(10) 自大正十三年三月下旬海軍省横須賀定期通信<small>(一週一回使用鳩共線鳩)</small></p>	<p>(1) 大正十年七月申八丈島本土間海底電線故障申左記諸通信ニ使用</p> <p>八丈測候所ヨリ中央氣象台、氣象通信、島麿ヨリ東京府庁、速達之要スル要表ノ輸送及七部外出張管欠ヨリ所屬諸官署へノ諸通信其ノ他、使用期間三日、所屬各時概不三時間餘</p> <p>(2) 大正十二年九月關東震災ニ際シ<small>機械的通信</small>機關復備ニ至ル十月間左記ノ如ク諸通信ニ使用</p>

航

空

隊

習 又 八 通 信 攻 障 時 二 來 々 凡

鎌倉方面三十三回、東京方面三十五回、葉山方面六回、全澤方面六回、千葉方面二回、飛行機五回、統通信回数八十七  
(四) 大正十三年四月横須賀基本演習ニ於テ潜水艦ト本隊航空機間ノ通信連絡ニ使用

(二) 大正十三年七月中旬四日市横須賀横須賀式水上機飛行演習ニ於テ復航ノ五機中ニ機駁河湾及々相模灘ニ不時着水ニ際シ使用ノ人命及機体救助ニ奏効

即大正十三年夏大演習ニ於テ左記諸通信ニ使用

東京湾外ニ行動セル飛行機及哨艦艇ヨリ空中防禦指揮官及水陸防禦指揮官ノ報告

館山航空基地ヨリノ諸報告

出勤飛行機ニ不時着水ニ應急用トシテ各機毎回搭載(内機ノ不時着水ヲ報告セハコトニ由)

以上實用通信回数三十三、使用鳩銃發射回数二百九十三回(半数夜間鳩)

小笠原父島ニ鳩舎ヲ急設シ特設航空隊飛行機ノ應急用並附屬船艇ヨリノ通信ニ使用

飛行機出勤ノ際搭載セシ回数五十五(毎回四羽乃至八羽搭載) 實用通信回数ニ

備	防	賀	須	橫	
於	時	演	用	實	常
	二				
	時				
	二				
	時				
	二				
	時				

(ハ) 大正十四年横須賀基本演習ニ於テ左記諸通信ニ使用  
 飛行機ヨリ、諸緊急通信及不時着水應急用上ニテ飛行  
 潜水艦及哨戒艦艇ヨリ戰況報告  
 館山基地ヨリ報告

使用場為南線及夜間鳩、統延數八十七羽、實用通信回數二十七

(イ) 掃海敷設機雷艇分等ノ為メ頻繁出勤スル所屬特務  
 船艇雜役船一概ニ無線ヲ有セスヨリ作業狀況報告  
 (ロ) 水陸防禦諸方面ヨリ、諸通信

(ハ) 東京海軍省、水路部等ヨリ、諸通信

(ニ) 所屬船艇巡視先ヨリ、諸通信  
 (ホ) 隊外派遣自動車及汽動艇ヨリ、諸通信

(ヘ) 隊外派遣者ヨリ、諸通信  
 (ヘ) 大正十三年度大演習ニ於テ左記諸通信ニ使用

大房島特設砲台工事狀況報告  
 電話輻湊不便ノ為メ、横須賀海軍航空隊ト通信連絡  
 ニ神用  
 (横須賀航空隊軍鳩通信ニハ水陸防禦指揮官ノ諸報告轉送)

校 術 砲		隊 備 防 濶 大		隊
時 間	席 費	通 信 費	用 費	用 費
<p>大正十二年 剛東震災ニ際シ機械的諸通信機開完後復旧スル迄分擔或嚴地区内ノ各地ヨリノ校諸作業其ノ他ノ重要ナル諸通信</p>	<p>(イ) 所屬野外演習地ヨリノ諸通信(主トシテ辻堂海軍用地ヨリ)</p> <p>(ロ) 所屬職員ノ出先ヨリ學校宛ノ諸通信</p>	<p>(イ) 降雪期交通杜絶ノ際ニ於テノ諸通信</p> <p>(ロ) 暴風等ノ爲海上ノ交通杜絶ノ際ニ於テノ諸通信</p>	<p>(一) 横須賀防備隊常時實用欄中ノイハル各項ニ同シ</p> <p>(二) 海週一四青森大湊間ノ定期通信</p> <p>(三) 水陸防禦各方面ヨリノ諸通信</p> <p>(四) 船ヨリノ諸報告</p>	<p>大正十四年度横領基本演習ニ於テ左記諸通信ニ使用</p> <p>横須賀海軍航空隊ト協同シ東京湾外ニ策動セル各哨船艇ヨリノ諸通信</p> <p>横須賀海軍航空隊ト通信連絡(急設往復通信)</p> <p>以上ニ項ニ使用スル鳩ノ籠地數三十三羽實用通信回数數十五</p>

伏時 實	佐世保防備隊	兵學校	潜水學校
時常	時常	時常	時常
(1) 野 (2) 所屬汽艇ヨリノ諸通信	(1) 掃海敷設機雷処分等ノ爲メ出動スル所屬特務船雜役船ヨリ作業状況報告 (2) 水陸防禦各方面ヨリノ諸通信 (3) 港外出動艦船ヨリノ諸通信 (4) 所屬汽艇ヨリノ諸通信 (5) 隊外派遣者ヨリノ諸通信	(1) 生徒學生ニ對スル軍艦教育 (2) 所屬練習艦船ヨリノ諸通信 (3) 巡航中ノ短艇ヨリノ諸通信 (4) 吳、富島、廣島、宇品ヨリノ諸通信 (5) 所屬汽艇ヨリノ諸通信	(1) 出動潜水艇ヨリノ諸通信 (2) 汽艇ヨリノ諸通信 (3) 校外派遣員ヨリノ諸通信

九

若	船	軍	隊 <small>隊分洋海時時</small> (ク ッラ ト)	舞鶴所隊	兵團
甲	時	常	時	常	甲
<p>(イ) 大正十一年五月三日 館山 碓泊 中 荒木 中尉 操縦ノ 横敵 小</p>	<p>(ハ) 大正十一年五月三日 館山 碓泊 中 荒木 中尉 操縦ノ 横敵 小</p>	<p>(イ) 大正十一年五月三日 館山 碓泊 中 荒木 中尉 操縦ノ 横敵 小</p>	<p>(イ) 大正十一年五月三日 館山 碓泊 中 荒木 中尉 操縦ノ 横敵 小</p>	<p>(イ) 大正十一年五月三日 館山 碓泊 中 荒木 中尉 操縦ノ 横敵 小</p>	<p>(イ) 大正十一年五月三日 館山 碓泊 中 荒木 中尉 操縦ノ 横敵 小</p>

官		軍艦		等務			
不人	時命	水救	於助	常時	實時		
<p>上機野島岬西約十哩ノ地點ニ於テ機械故障ノ爲不時            着水シ波浪長大ニシテ危機ニ瀕セル際軍鳩ニヨリ            急ニ搜索中ノ伊船ニ告ケ伊船ノ來着ニヨリ人命ニ事ナ            キヲ得タリ</p>		<p>(四) 大正十四年三月十三日三田瓦破泊中飛行中ノ一機所在不明ト            ナリ全船隊憂慮病心中ノ如遭難機ヨリ軍鳩通信ニヨリ            周防灘(本船ト距離十六哩)ニ着水セムヲ知リ有ニ救助艇ヲ            派遣シ入機天ニ救助スルヲ得タリ</p>		<p>(イ) 自大正十三年四月北海道樺太、沿海州警備中土地市街民情            至々十三年五月北海道樺太、沿海州警備中土地市街民情            等ノ状況視察報告及ヒ衛生状況報告</p>		<p>(ハ) 船外派遣者ヨリノ諸通信</p>	
<p>(イ) 大正十二年九月関東震災救護ノ爲横浜港碇泊中陸上            救護班ト軍鳩ニヨリ通信連絡ヲ保持シ救護作業ノ            實施施ラシテ極メテ円滑適切ナラシメタリ</p>		<p>(ロ) 寄港地陸上ヨリノ諸通信</p>		<p>(ハ) 所屬汽艇ヨリノ諸通信</p>			

船 高 崎

甲	事 特 殊 時 於 賞 用
<p>(ハ) 船外派遣者ヨリノ諸通信</p>	<p>(イ) 大正十二年九月、横須賀在泊中大震、大ニ際シ、乗組士官等、        艇被害状況報告及救護作業報告        (ロ) 上記震災後、吳及青森、宮古ノ各地ニ寄港セ、際震災地        ニ送ルヘキ救護材料積込状況報告</p>
<p>(イ) 彈藥塔或積卸シ方ニ際シ、陸上彈庫、火藥庫ト本船トノ通        信連絡</p>	<p>(ロ) 魚雷基本教練、發射ノ際、採枚、航及監視、揚ヨリ魚雷        通跡、因其他報告(電信員居ルニ、航、機動揚シ船、軍        ノ為發信不能本船航中)</p>
<p>(ハ) 三田尾郊外ニ於テ、第四、五戰隊陸上對抗演習ニ於テ        第四戰隊陸戰隊ノ前衛部隊指揮官ヨリ、刻々ノ戰闘        報告ヲ沖合碇泊中ノ船隊ヲ全部(全剛)ニ輸送ス(大正十三年        三月)</p>	<p>(ニ) 臨戰準備作業ニ於テ、陸上彈庫、火藥庫、工敵、軍需部        港務部等ト本船トノ通信連絡ニ用ヒ、極メ有効貢獻メ        リキ(全剛ハ大正十三年大演習ニ於テ、臨戰準備廣範艦        ナリ)</p>



隊 艦 二 第) 副 全 艦 軍

常	時	實	用	演
<p>印佐伯作業地在泊中ノ陸上ヨリノ諸通信又出動中ノ他艦船ニ在ル本艦ヨリ派出スル戰技諸委員ヨリ公私ノ諸通信ニ用テ甚夕便利ナリキ</p>	<p>ハ 艦載水雷艇魚雷發射成績報告                      一 掃海作業報告</p>	<p>ハ 寄港地投錨直後軍醫官ノ陸上衛生視察報告                      ニ 寄港地投錨直後水路ノ陸地照探橋等ノ状況報告                      ハ 寄港地入港後陸上偵察電信所設置ニ至ル迄ノ陸海連絡及                      復後各所ヨリ補助通信</p>	<p>ハ 巡航中各寄港地官憲ト司令部トノ通信                      ニ 艦隊司令長官、參謀長、船長等ノ艦外ニ於テ行行動要                      更通知並迎ノ汽動艇ノ時間ヲ通知</p>	<p>ハ 艦外派出ノ諸短艇並陸上派遣ノ一艇ノ乗員ヨリノ諸通信                      ニ 潜水艦戰術發射状況報告(本艦航海中)                      ハ 編隊航行中僚艦ヨリ公私ノ諸通信                      ハ 第一艦隊基本演習ニ於テ前衛部隊(第五戰隊)ヨリ司令部ニ稟敵報告(無線ト同又通信)</p>

(船獲)

<p>習呼ニ於心實用 (本船航航)</p>		<p>向天龍ヨリ司令部ニ糧食分配請求                  向天龍ヨリ司令部ニ位置報告                  向天龍ヨリ父島ノ發信又不明留所別合セ                  向天龍ヨリ司令部ニ行動報告                  向北上ヨリ司令部ニ位置報告</p>	
<p>事</p>		<p>記</p>	
<p>大正十三年 三月二十日</p>	<p>大正十三年 三月二十日</p>	<p>發信地 三田尾郊外</p>	<p>發信地 三田及沖在泊</p>
<p>佐世保</p>	<p>佐世保</p>	<p>野外發信地</p>	<p>司令部(全剛)</p>
<p>No2浮標全剛</p>	<p>三週</p>	<p>六週</p>	<p>巨角</p>
<p>午後二時</p>	<p>午後五分</p>	<p>午後七分</p>	<p>午後十分</p>
<p>中継機ニ一四中継</p>	<p>三回ノ平均</p>	<p>巨角到着時間共ニ十四ノ平均ナリ</p>	<p>備考</p>
<p>便利ニ機會多シ                  五軒以上ノ距離ニ於テ陸上及派遣短艇等ヨリ沖合碇泊                  中ノ本船へノ通信ニハ軍鳩ヲ極メテ輕便確實ニシテ其                  ノ費消時モ亦本外少ナリ尤ニ廣験成績ヲ示ス</p>			

二、海軍ニ於テノ軍鳩ノ用途

軍鳩能力、軍鳩通信ノ特徴ニ鑑ミ又現在我海軍各部ニ於テノ實  
驗ニ徴スルニ軍鳩ヲ設置スルニ各部及其ノ用途凡レ左表ノ如クナリシ

使用箇所(船種)	用途	設備(軍鳩種類)
航空隊	飛行機ノ急降、航空船ヨリ不時着水、着陸急降 及リ、代諾通信	固定鳩舎
航空母艦	飛行機ヨリ不時着水、着陸急降其ノ他水陸及空中 ヨリ、代諾通信(航空母艦)	船上鳩舎(分解式)
潜水艦隊	潜水艦ヨリ母艦(被艦)ノ諸通信(被艦側)	船上鳩舎(分解式)
防備隊	防備隊所屬ノ駆逐艦、潜水艦、掃海艇、敷 設艇、哨艇其ノ他大小船艇ヨリ本部ノ諸 通信(特ニ無線ヲ有スル船艇用)	固定鳩舎 棚鳩舎
前進根拠地航空 基地特設防備部隊	左右	特設固定鳩舎
特別任務艦隊	往來浦、海、北、海、方、面、ノ、警、備、船、艇、ノ、如、ク、陸、上、ト、ノ、交、渉 多ク、船、上、ヨリ、陸、上、ヨリ、諸、通、信	棚鳩舎(分解式) 小型船上鳩舎(分解式)
根子江汽船船	敷設艇、哨艇等ニ陸上トノ交渉多ク、陸上派遣人 員又ハ陸上ヨリ本船ノ諸通信	
港務部、學校、海兵 團等無線ヲ備ヘル 舟艇ノ有スル部隊	陸上派遣人員又ハ所屬舟艇ヨリ本部ノ諸通信	固定鳩舎

船隊主力船(夜襲)ノ主トシテ碓泊中水陸ヨリ本船ノ諸通信

船上鳩舎(分解式)

上陸作戦ニ従軍スル船場陸シ陸戦部隊用固定鳩舎トシテ陸戦ニ使用

船上鳩舎(分解式)

第一遣外船隊ニ於テ未ダ何等ノ實驗ナキモ今日迄ノ他船艇殊ニ軍艦  
 巡鯨(鳩舎搭載)ノ昨年三月上海碓泊中ノ經驗ニ徴スルハ遣外船  
 隊船艇ニ船上鳩舎ヲ有スルトキハ其ノ任務上軍鳩ヲ使用シテ有効便  
 利ナヘキ機會多クアハヘキハ信シテ疑カ所ナリ。尚戰時毎設置  
 機、特設防備隊等ニ鳩舎ヲ設置スルハ其ノ利用範圍亦大  
 ナクアラシク又昨<sup>年</sup>度大演習ニ於テ父島航空基地ニ臨時特設  
 鳩舎ヲ設置シテ有効ナリシニ鑑ミ將來南方作戦ニ利用セラハキ  
 諸島、鳩舎ヲ設置スルハ其ノ價值亦大ナクアハヘシ  
 又上陸作戦ノ場合解軍迅速ナル水陸通信ノ如キハ軍鳩ノ活舞  
 台ニシテ陸戦隊或ハ陸兵ヲ揚陸セシムヘキ任務ヲ有スル船艇ニ船上  
 鳩舎ヲ有スル時ハ揚陸地ヨリノ通信方法トシテ軍鳩力最モ敏  
 速確實輕便ナルコト。大正十三年度第一船隊陸上演習ニ於テ  
 旗船全副ノ船上鳩舎ヲ以テ具ニ實驗セ人所ナリ。又上陸作戦ニ於  
 テハ船上鳩舎ヲ直ニ陸上ノ台領地點ニ搬シ陸上鳩舎トシテ直  
 ニ專用シ得ケル利便ニアリ

三、海軍用各種鳩舎ノ配備及其勢力

軍鳩配布標準

便鳩宿所 所費 羽數	飛行機	氣球	航空船	防衛隊 船	船
所費 羽數	六	一二	六〇	一〇	／
飛行機 三分一用ニ羽搭載シ三直利(二直候用中ニ直搭載用意ニ直休養)トシ合計六〇初	氣球 三分一用ニ六初搭載シ二直利(二直ハ待機休養)トシ合計一二初	航空船 三分一用ニ三羽搭載シ二直利(二直ハ待機休養)トシ合計六〇初	防衛隊 船 八初搭載スルニトシ二直利(二直ハ待機休養)トシ合計一四初	船 搭載鳩數ハ船ノ大小ニ依リテ決メヨリ制限セラルルニ於テ六四噸以上ノ船ハ一〇〇初入り鳩舎六千噸未満ハ五〇初入り鳩舎ヲ搭載ス	

右ノ陣ニ使鳩宿所或ハ船上鳩舎ノ所要鳩數ノ標準ヲ示シタルニ  
 過キス實際ニ鳩舎ノ設備スル場合其ノ常備鳩數ヲ定ムニ當  
 リハ右ノ外使用目的、使用距離、所在地勢ニ依リ訓練ノ難易、  
 訓練線別等種々ノ條件ヲ顧慮セザルカラス 今日迄ノ實際研究  
 ノ結果ニ依リ我海軍部内軍鳩所要各部ノ現在(平時)ニ於テ諸  
 條件ヲ顧慮斟酌シテ試ニ平時ニ於テ其ノ所要鳩數ノ配備シ度  
 盡スハ左表ノ如クスルヲ適當トスヘク其ノ鳩舎鳩數ハ大小ニ依  
 リ一定ノ法式ニ依リ律スル能ハサルコト尙左表記事欄ニ詳記セハ  
 如シ

(一) 陸上部 (一) 印ハ軍鳩ヲ現有スル箇所

艦部隊名	常備人員 機銃数	合計人員 機銃数	記
横須賀航空隊	二〇〇	五〇〇	<p>艦隊ハ各隊常用飛行機、航空艇、自衛隊ノ機銃、電燈、トスヘト共ニ各隊ノ任務並所在地ノ機銃ニ依リ訓練ノ難易、訓練線別(夜間ニ含む)、使用距離等ヲ顧慮シテ定メタルナリ、航空隊所屬機銃ノ積多キハ航空隊ノ任務作業上、遠距離各方向ヨリ使用可能ナル多數ノ優良機ヲ必要トスル故、比較的多數ノ機ヲ養成シ訓練淘汰之要スルヲ以テナリ</p> <p>鳩数ハ各隊平時所屬機銃、海艇ノ機銃ヲ基シテ所屬潜水艦並艦艇、駆逐艦ノ機銃ヲ算シ且防備隊ノ防備已域々各隊所生地ニ於テハ是レ被爆土ノ影響シ若干被爆シ定メアリ</p> <p>防備隊ニ依リテハ中巨砲(三〇キリ乃至五〇キリ)ノ夜ヲ確實ナル至朋鳩及夜間鳩ヲ必要トスルヲ以テ比較的多數ノ機ヲ有ス</p> <p>現在佐世保海兵署ノ夜間海上及陸上ヨリ常用通信ノ実況ニ鑑ミ鳩数ノ機定レヤ</p>
佐世保航空隊	一五〇	三五〇	
大村航空隊	五〇	一〇〇	
廣分遣隊	三〇	五〇	
横須賀防備隊	一五〇	二五〇	
吳防備隊	一六〇	二七〇	
佐世保防備隊	二〇〇	三二〇	
舞鶴防備隊	一〇〇	一五〇	
大湊防備隊	八〇	一四〇	
鎮海防備隊	一〇〇	一五〇	
馬公防備隊	八〇	一四〇	
佐世保海兵團	三〇	五〇	
横須賀海兵團	三〇	五〇	
吳海兵團	三〇	五〇	

砲術學校	四〇	七〇	現在各校、於九月貸用誌所見ノ實情、艦ノ増數ヲ概定シテ
水學校	三〇	五〇	
潜水學校	五〇	八〇	
海軍省	二〇	六〇	
各部隊	二〇	三〇	東京附近、横須賀地方、東京湾海上ヨリ、補助員信用トシテ増數ヲ概定シテ
港務部	二〇	三〇	港務部ニ於テハ、便用ノ範圍ヲ考慮シテ増數ヲ概定シテ

備考

戦時ニアリテ右記各所ノ任務、四圍ノ状況等ニ依リ使鳩回數ノ増加スベキ人必然ノコトナレド鳩數ニ四割乃至五割ノ増加ヲ必要トスベシ

(二) 海上ノ部 (一) 印ハ軍鳩ヲ現有スル船名

船名	搭載スル鳩舎ノ種類及數量	全上ニ飼育スベキ鳩數	記	事
若宮ノ如キ海軍航空分隊	大型分解鳩舎一	一〇〇	船上鳩舎ニテハ應發鳩數ヲ基準トスル能ハス	
陸軍航空分隊	左 右一	一〇〇	塔敷船ノ大小ニ依リ鳩舎ノ容積ヲ制限セリトシテ	
海軍外艦隊	小型分解鳩舎一	五〇	同鳩舎内飼育収容鳩數ノ中ニ最大應發	
所屬艦船	大型分解鳩舎一	一〇〇	鳩數ヲ得ル如ク飼育訓練スベキトス	
艦隊	小型分解鳩舎一	五〇	平戦時ニモ塔敷鳩數ニ変化ナレ	
艦隊	大型分解鳩舎一	一〇〇		

尚戦時ニ於テハ航空隊防備等ノ鳩數ハ使用航空機又ハ船舶ノ増

加数ヲ顧慮シ前表ヲ基礎トシ増加スルヲス 其他特設防備隊  
前進航空基地特設望塔等ニ於テ鳩数ハ前表ニ準ス  
四、各種鳩舎ニ要スル人員並経費

(一) 所屬人員

一、鳩舎配屬一般原則

(1) 独立セル鳩舎ハ士官ノ指揮管理ノ下ニ置キ下士官兵ニ以上ヲ配  
スルヲ要ス

(2) 独立ナル大鳩舎一鳩舎群ニハ必ス専務士官及特務士官(准士官)  
若干名ヲ配スルヲ要ス

三、陸上鳩舎配屬通則

(1) 一人ノ專鳩兵カ各個鳩ノ能力性癖等ヲ知悉シ以テ適切ニ飼  
育訓練淘汰管理シ得ル最大鳩数ハ五十羽ナリ

(2) 数百羽ヲ收容シ得ル大鳩舎ニ雖飼育管理並使鳩運信術  
上ノ時迄捕獲シ收容スルシムルニ數個ノ鳩舎ニ正劃スルヲ要シ

一鳩舎ノ最大收容鳩数ハ百羽ナリ

(3) 一個ノ夜間鳩舎 往復鳩舎ニ必ス最小限専務下士官兵ニ名ヲ配  
スルヲ要ス



陸上鳩舎配員標準

右記配員原則遵照スルハ共ニ摩鳩下士官兵ノ配員率ハ  
大約五十羽毎ニ兵一名トシ且一鳩舎(一鳩舎群)カ三鳩舎(ニ  
鳩舎)以上ヨリ九トキハ直接監督者トシラ鳩舎(鳩舎)ノ及テ持  
テ摩鳩下士官一名ヲ配置スルノ要ス但シ鳩舎ノ種類、數量  
訓練線別、訓練ノ晝夜別等ニ依リ所要人員ニ増減アルハ勿論  
ナリトス

三、船上鳩舎配員標準

大型分解式鳩舎一、 士官一、 下士官一、 兵二、  
小型分解式鳩舎一、 士官一、 下士官二、

(二) 所要經費

(1) 鳩一羽ニ對スル經費(飼料費) 年額 約六圓  
(2) 鳩舎設備、軍鳩所要用品、訓練教養等ニ要スル經費  
右ニ件ニ對スル實驗研究詳細ハ附録第六篇「海軍固定鳩舎管理  
標準並經費」ニ記載シアリ 本隊ニ於テハ海陸兩方面ニ於テ研究  
用ナリシ爲比較的多額ノ經費ヲ要シタルニ鳩舎型式、鳩舎設備  
所要用品ノ略々研究知得セシタル今日ニ於テハ更ニ少額ノ經費ニテ

支辨シ得ヘク目今ノ諸物價ノ参照シ諸鳩舎ニ對スル所集  
 經費見込額大約左列ノ如シ

考	備	鳩舎	鳩舎	計	常		經		費		計	鳩舎	鳩舎	鳩舎
					訓練	常	飼	飼	鳩	鳩				
三	鳩舎	鳩舎	鳩舎	九五〇	三〇〇	三〇〇	一四〇〇	五〇〇	五〇〇	一四〇〇	陸	上	鳩	鳩
五	鳩舎	鳩舎	鳩舎	一七五〇	四〇〇	七〇〇	二四〇〇	五〇〇	一〇〇〇	二四〇〇	陸	上	鳩	鳩
一六	鳩舎	鳩舎	鳩舎	三八〇〇	一三〇〇	一三〇〇	五二〇〇	一二〇〇	二〇〇〇	五二〇〇	陸	上	鳩	鳩
	鳩舎	鳩舎	鳩舎	五七〇	七〇	二〇〇	一四〇〇	五〇〇	五〇〇	一四〇〇	陸	上	鳩	鳩
	鳩舎	鳩舎	鳩舎	八二〇	一二〇	一〇〇	二八〇〇	八〇〇	一〇〇〇	二八〇〇	陸	上	鳩	鳩

参考ノ爲メ本隊ニ於テ処理シタル海陸両方面ニ於テハ軍鳩年度經費  
 (支辨高シ額額シ示ス(本隊、若宮、高崎、金剛、横須賀所備隊、大塚  
 所備隊、砲術學校ニ供給シタル分シ含ム)

年度	備品	消耗品	訓練旅費	雜費(運送費)	合計
大正十五年	(備、消費計) 七、五二、九三〇	一、四六、〇一三	三二七、七〇〇	九三九、七五〇	
大正十四年	( ) 五、九四九、八三〇	一、五八、一八〇	四七九、七三〇	七、九四七、七四〇	大正十四年度以前は備品消費品、且別として大正十三年度より、軍鳩通信用品ノ定額未制定ナリ
大正十三年	四、〇三三、七四七	三、〇三三、五三三	一、七八六、五〇〇	一、一九、〇五〇	

五、教育、統制及補給機関設立ノ必要

(一) 軍鳩術教育機關設置スルニ由ラス

軍鳩通信ノ精進ハ主トシテ鳩ノ能力ノ優劣ニ據リテ左右セラレ、  
 モノニシテ其ノ能力ノ増加ハ一ニ素質ノ改善ト合理的訓練トニ俟タス  
 ヘカラス

現代傳書鳩ノ奇蹟的通信性ハ其ノ微細ノ天賦ニ對シ數世紀ニ亘リテ進綿不断ノ人為的改善ヲ施シタル結果ニシテ彼ノ白耳義、紺、黒、赤ニ於テ優鳩ノ如キも實ニ卓越シテ造詣ト技術トヲ以テシタル丹精苦心ノ賜ニ外ナラザリ而シテ優鳩モ之レカ訓練ヲ施スニアラスニハ漸次性能退化シテ野鳩ニ墮ス彼ノ一般官廳民間等ニ於ケル鳩通信ノ成績不良カ如キ又我海軍部内ニ於ケル軍鳩

現有部隊中其成績比較的不良者如キ皆其ノ訓練ノ當ノ得ズニヨル致上ラ船舶兵器ニ比スル進兵者ノ苦ムト用兵者ノ訓練トノ必要ナクニ異ナルトシテ、實ニ掌鳩者ハ鳩ノ進兵者ニシテ且ツ鳩ノ教官多ク、鳩通信ノ成果ノ良否ハニ掌鳩者ノ智識技術ノ優劣ニ左右セラル、軍鳩實施上掌鳩者ノ養成ハ第一着手ノ問題ニシテ軍鳩術教育機關ノ設立ハ之ヲ缺ク能ハズモナリ

(二) 軍鳩術教育課目ノ概要左ノ如シ

(1) 精神教育

責任觀念、服従心、研究工夫心、忍耐力、觀察力、独断專行力、温和親切性、孝養性、細密性

(2) 鳩術

軍鳩通信ノ特質又処理法、鳩ノ性能、鳩ノ解剖生理及衛生、飼育管理取扱法、各種軍鳩訓練法（船上、夜間、後動往復多含む）、鳩舎需品器具器材管理法、自轉車及自動車操縦法、寫真術

(3) 神修教育

氣象學、地理地文學、電氣學、動物學、病理學、解剖學

藥品學、遺傳學、食品化學、物品學（主として飼料及所養畜品に關スルモノ）、物理化學初歩、統計及簿記初歩、普通學、通信術一般

(三) 軍鳩術教育期間ハ一ヶ年ヲ適當トス

軍鳩術ノ一般の智識ヲ机上ニ得ハハ敢テ長日月ヲ要スハモミカラサルモ尚モ掌鳩者トシテ實後ニ當ル者ニ對スル教育期間ハ一ヶ年ヲ以テ適當トス之レ鳩ノ生理的變化ハ一ヶ年ヲ一週期トシ又孵化後成鳩ニ達スル迄ノ取扱、教訓訓練等一週期間内ニ於ケル情況ノ變化甚レキヲ會得セシムル必要アルヲ以テナリ  
因ニ從來ノ經驗ニ徴スルニ相當技能ヲ具フルニ至ル迄ニハ先ツ二ヶ年ヲ要ス

(四)

軍鳩術教育機関ヲシテ軍鳩術ヲ統一セシムルヲ要ス  
軍鳩術教育機関ハ軍鳩術ノ最高智識ニシテ最高ノ權威ナリ以テ伏鳩部隊トノ連絡ヲ密ニシテコレヲ指導シ我海軍軍鳩術ノ向上ヲ計ルト共ニ共通性ヲ保有スルノ必要アレハナリ統一機関トシテノ所掌概不左ノ如キモノナルヘキカ  
(1) 鳩術ノ指導並研究調査報告作製

(四) 軍鳩用需品器材等統一制定並コレカ研究改善

(一) 軍鳩ニ関スル特種改善

因ニ現在横須賀航空隊ハ小規模ナカラ事實上軍鳩術教育  
機関ニシテ又統一機関ナリ軍鳩實施ニハ先ヅ制度ヲ設ケテ編  
制ヲ新ニシ設備ヲ完ウレテ叙上ノ實行機関ヲラレムルヲ適當  
トス

(五)

軍鳩術教育機関ヲシテ軍鳩補充源ヲラレムルヲ要ス

鳩ハ蕃殖旺盛ナルヲ以テ各鳩舎ニ於テ自給自足スルハ最モ  
簡單ニシテ經濟的ナルカ如シト雖モコノ自給自足ハ左ノ理由  
ニヨリ全然不適ニシテ一大補充源ヲ設置スルヲ要ス

(一) 局所的蕃殖一鳩舎ノ自給自足ハ近親交配ノ弊害ニ陥リ  
異種交配ニ依ル血液更新ノ途ナク又遺傳ノ變異性ヲ利  
用スル品種改善ノ範圍モ狭トナリ遺傳ノ原則ニ從ヒ忽チ  
鳩体及ヒ性能ヲ退化セシム現ニ本隊在来鳩ノ直系仔鳩ハ  
著シク体力性能低下シツアリ

(二) 獨立セル鳩舎即チ比較的少数羽ヲ有スル實用部隊ニ於テ  
實用ヲ主トシテ優良鳩ノ作出ニ專念從事スルハ飼育管理  
上實行不可能ノ事ナリ殊ニ艦上鳩舎ノ如キハ容積場所ノ

園係上仔鳩ノ育成ニ不向ナル莫多キヲ以テ徒ラニ望ミ少キ  
 艦上育雛ノ煩勞ニ没頭スルコリモ陸上ノ補充鳩舎コリ頑健  
 ナル仔鳩ノ補充ヲ受テ後天的ニ海上性ヲ賦與スルヲ得兼捷  
 徑トス

(ハ) 軍鳩ハ普通ノ老衰傷害疾病等ニ依ル自然淘汰ノ外ニ訓  
 練甚實用中ノ失踪ニ依ル減耗能力査定ニ依ル人為淘汰  
 等ニヨリ完全ナル成鳩ヲ保有スルコト案外容易ナラス  
 殊ニ戰時ニアリテハ煩ニ鳩數ヲ増加スルハ必要アルト共ニ對消  
 耗補充鳩數ノ多カルヘキハ想像スルニ難カラサル所ニシテ民  
 間鳩動員ノ容易ナル彼ノ自耳義併蘭西等ノ如キ利便ヲ  
 ヲ有スルコト少ナキ現時ノ我國情ニ對シ平時ヨリ補充源ノ  
 相當完備ヲ要スルコト又取テ贅スルノ要ナカルヘシ  
 以上補充源ヲ軍鳩術教育機関内ニ設置スルハ其維持上諸  
 種ノ利便ヲ有ス即チ本項ヲ提唱スル所以ナリ

(終)

122

1960

軍務局

一月十日

司令長官

横須賀 四九〇

大正十五年十二月十九日

日 透 達

横須賀海軍航空隊司令 市川大治 郎

横須賀鎮守府司令長官 加藤寛治 殿

軍鳩研究報告 附録 (自第編) (至第編)

本年十一月提出軍鳩研究報告之附録(一)

右提出不

終

参謀

副官

参謀

鎮横 15.1.6. 受

1689-6

横須賀海軍航空隊司令 市川大治 郎

15 官 男 市川大治